



かんぽ 環保センターだより

発行：岡山県環境保健センター

〒701-0298 岡山市南区内尾739-1

TEL:086-298-2681 FAX:086-298-2088

URL <http://www.pref.okayama.jp/soshiki/185/>

目次 [巻 頭] インフルエンザ情報発信中！	1
[環保研究レポート] 宮城県石巻市における環境調査について	2, 3
[研究者のひとりごと] 個人輸入したダイエット製品による健康被害について	4

インフルエンザ情報発信中!

今年もインフルエンザが流行し、学級閉鎖などが多くなる季節となりました。インフルエンザはインフルエンザウイルスを原因とする呼吸器感染症です。おおむね1～4日の潜伏期間を経て、突然の発熱(38℃以上の高熱)、頭痛、咳、咽頭痛、鼻水、筋肉痛などが出現します。通常は1週間前後の経過で軽快しますが、一般的な「かぜ」に比べて全身症状が強いのが特徴です。主な感染経路は、くしゃみ、咳、会話等で口から発する飛沫に含まれるウイルスを吸い込むことによるものです。

インフルエンザウイルスには、A、B、Cの3つの型があります。人の間で流行するのは、主にA型とB型で、A型にはH1N1pdm09(2009年に流行した新型インフルエンザ)・H1N1(ソ連型)・H3N2(香港型)の3つの亜型がありますが、現在ソ連型はほとんど検出されなくなりました。

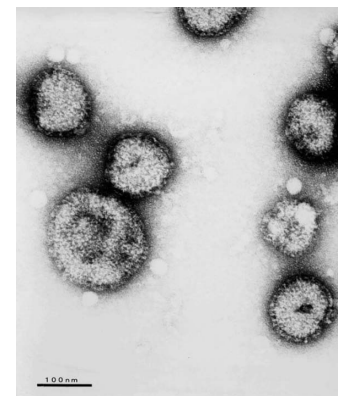


図1 インフルエンザウイルス (環境保健センター撮影)

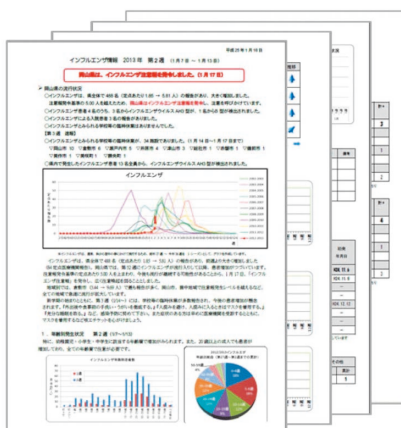


図2 インフルエンザ週報

2012/2013年シーズン(※1)の県内の発生状況は、2013年第5週(1月28日～2月3日)に岡山県感染症警報発令基準である定点(※2)あたり30.00人を越えており、2月13日現在インフルエンザ警報が発令されています。

岡山県感染症情報センターでは、発生動向調査から収集した県内のインフルエンザの地域別・年齢別発生状況、ウイルス検出情報、学校等の臨時休業などを取りまとめ、ホームページに掲載しています。また、メールマガジンを発行し、毎週の発生状況や、注意報・警報発令時にはより早く、みなさんに情報をお届けします。インフルエンザの感染予防・拡大防止に、岡山県感染症情報センターのホームページをお役立てください。(企画情報室 秋山研究員)

(※1)2012年7月1日から2013年6月30日まで

(※2)感染症の発生状況を知るために一定の基準に従い情報提供してくれる医療機関のこと。1週間にインフルエンザと診断された1医療機関当たりの患者数で流行状況を判断する。

岡山県感染症情報センターのホームページ

<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/309/>

「岡山県感染症情報メールマガジン」への登録も随時募集中!

<http://www.pref.okayama.jp/page/detail-97672.html>

環境研究レポート 宮城県石巻市における環境調査について

1 はじめに

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は東北地方に未曾有の被害をもたらしました。岡山県医師会「JMATおかやま」では、震災発生直後から宮城県石巻医療圏で救護活動を行っていましたが、宮城県石巻市において咳症状を訴える被災者が多かったことから、原因究明のために「岡山県医師会被災地支援プロジェクト」^(※1)を編成し、現地の医療機関に対して分析データを提供してきました。

こうした中、平成24年度はより詳細な調査を行うために、JMATおかやまから当センターに協力要請があり、平成24年9月に当センター職員3名が宮城県保健環境センターと共に石巻市で環境調査を行いました。

2 石巻市の状況

石巻市は、宮城県東部に位置する県内第二の人口を擁する市ですが、東日本大震災では地震と津波で大きな被害を受けました。図1は石巻市役所から見た市街地の様子です。この一帯は津波被害を受けましたが、調査を行った平成24年9月時点では建物や道路等はかなり復旧しており、復興が進んでいるように感じられました。



図1 石巻市街地の様子

一方、図2は旧北上川の河口から約1.2km上流にある橋梁の写真です。橋桁や橋脚等は残っており車両は通行できる状態でしたが、津波により欄干が大きく損壊し、修理が完了しないままに車両が通行している状態でした。このように今なおいたるところに震災の爪痕が残っていました。

また、図3は沿岸地域にある震災廃棄物の集積場の様子です。ここには、大量の廃車等が積み上げられたままとなっており、こうした震災廃棄物

の処分についても喫緊の課題であると感じられました。



図2 欄干が破損した橋梁



図3 震災廃棄物集積場

3 大気粉じん調査

市立湊小学校(図4)は、旧北上川の河口より約1km上流の左岸にあり、津波被害を受けながらも大規模避難所となっていました。JMATおかやまは、ここを拠点として活動していましたが、多くの避難者に咳症状がみられたことから、本調査において校舎屋上にエアサンプラー^(※2)を設置して大気中の粉じん(塵)を捕集しました。



図4 湊小学校の校舎

4 津波堆積物調査

粉じんの発生原因の一つとして、津波で打ち上げられた海底の堆積物が微細な粉じんとなり飛散したことが挙げられるため、市内8ヶ所において堆積物と推測される土砂等を採取しました。ここでは、このうち3ヶ所について報告します。

(1)石巻市民プール

旧北上川の河口より約2.5km上流の左岸に位置する勤労者余暇活用センター「明友館」は、津波で被害を受けながら震災発生当初から避難所として使用されてきました。はじめはここでの試料採取を予定していましたが、現地調査の結果、堆積物が採取できなかったため、堆積物がそのまま残されていると思われる隣の石巻市民プール(図5)で採取しました。



図5 石巻市民プールの採取地点

(2)石巻漁港

かつて水揚げ岸壁の長さが日本一を誇り、水揚げ量と水揚げ高が国内有数の大漁港だった石巻漁港も津波で壊滅的な被害を受けました。ここでは、道路の中央分離帯付近(図6)に堆積物と思われる土砂等が残っていたため、これを採取しました。



図6 石巻漁港の採取地点

(3)石巻市立病院周辺

石巻市立病院は、旧北上川右岸の河口付近に広がる平野に立地しており、震災前この周辺は住宅地で多くの店舗や公共施設等が立地していました。しかし、市立病院などの堅固な建物以外は津波によりそのほとんどが流出し、現在はほぼ草地となっています。当地で調査を行った結果、病院周辺の道路脇(図7)に堆積物と思われる土砂等が残っていたため、これを採取しました。



図7 石巻市民病院周辺の採取地点

5 採取試料の分析

採取した試料は、現在「岡山県医師会被災地支援プロジェクト2012」の参加機関(下表)において様々な分析が行われています。分析結果については、判明次第報告します。

表 プロジェクト参加機関の分析項目

環境分析	松山大学	粉じん(SPM ^(※3) 、微生物、花粉等)
	東京農工大学	有害化学物質
	東邦大学	粉じん(微生物、花粉等)
	愛媛大学	堆積物(大腸菌、緑膿菌)
	岡山県環境保健センター	粉じん・堆積物(質量、重金属等)
臨床分析	岡山大学医学部 耳鼻咽喉科	臨床データ分析
	岡山大学医学部 総合内科	
	国立療養所 邑久光明園	
	国立療養所 長島愛生園	

6 おわりに

当センターでは、平成23年4月以降に福島県での環境放射線モニタリング業務に職員を派遣するなどの支援を行ってきました。今回の調査を通じて、環境分野はもとより様々な分野において今後とも息の長い復興支援が必要であると強く感じました。

最後に、本調査に多大なる御協力をいただきました江谷勉先生^(※4)及び笠井紀夫先生^(※5)をはじめ、社団法人岡山県医師会、宮城県保健環境センター、石巻市教育委員会及び関係機関の方々に感謝いたします。

〔大 気 科 林 専 門 研 究 員〕
〔水 質 科 山 本 専 門 研 究 員〕
〔企 画 情 報 室 坂 口 研 究 員〕

- (※1) 被災地での呼吸器疾患等の原因究明のために岡山県医師会が立ち上げた健康と環境に関する合同調査チーム
- (※2) 空気をフィルターに通して吸引しそれに含まれる粉じんをフィルターに集める方式の空気捕集器
- (※3) 浮遊粒子状物質(粒子径10 μ m以下の微小な粒子)
- (※4) 国立療養所長島愛生園 耳鼻咽喉科医長・医局長
- (※5) 国立療養所邑久光明園 耳鼻咽喉科医師



研究者のひとりごと 個人輸入したダイエット製品による健康被害について

最近、「ホスピタルダイエット」などと称するタイ製ダイエット製品による健康被害が報告されており、今回はこうした製品による健康被害についてお話ししたいと思います。

「ホスピタルダイエット」とは

「ホスピタルダイエット」とは、ダイエットを目的として海外(タイ)の病院が処方する複数の医薬品からなる製品群で、「MDクリニックダイエット」などとも呼ばれます。我が国では、こうした製品は、主にインターネット等を通じて個人輸入^(※1)が行われていますが、これらによる健康被害が疑われる事例が全国で18件(平成24年12月末現在)発生しており、このうち4件の死亡事例が報告されています。

県内での健康被害事例

県内で発生した健康被害事例では、岡山市内の20代女性がインターネットを通じて個人輸入したタイ製のダイエット製品(錠剤6種類、カプセル剤1種類)(図1, 2)を服用したところ、腹痛や嘔吐の症状が現れ、市内の病院に救急搬送されました。



図1 製品写真



図2 製品外装写真(一例)

医薬品成分の分析結果

岡山市からの依頼を受け、当センターでこの製品の成分を分析したところ、医薬品成分であり抗ヒスタミン作用^(※2)のあるクロルフェニラミンや、大腸のぜん動運動促進作用のあるピサコジル、フロセミド、シブトラミン及び甲状腺末が検出されました。このうちシブトラミン(図3)は、我が国では医薬品成分として承認されておらず、服用により血圧上昇や心拍数増加などの副作用のほか、既に服用している医薬品の作用に影響を及ぼすなどの重大な健康被害が報告されています。

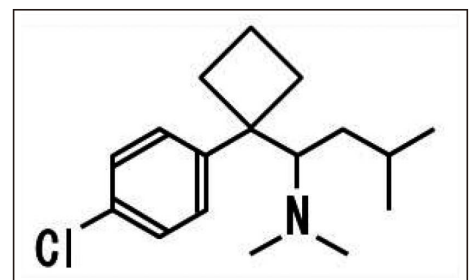


図3 シブトラミンの構造式

県民のみなさんへ

こうした個人輸入製品の中には、法律で個人輸入が禁止されている向精神薬をはじめとする危険な成分が含まれていることもありますので、安易な服用は避けてください。なお、健康被害のあったダイエット製品の詳しい内容については、厚生労働省のホームページ^(※3)をご覧ください。

(衛生化学科 浦山研究員)

(※1) 個人使用を目的として外国製品を商社や輸入代理店等を通さず個人が直接購入すること

(※2) 血管拡張作用があるヒスタミンによっておこるアレルギー症状(くしゃみや鼻水等)を抑制する作用のこと

(※3) 厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/kinkyu/diet/jirei/030902-1.html>